

平成 29 年度 第 1 回昭島市環境審議会
会議録（要旨）

〔開催日時〕 平成 29 年 7 月 20 日（木） 18：30～20：15

〔開催場所〕 昭島市役所 3 階庁議室

〔出席者〕

- 1 委員：安部委員、尾崎委員、小野沢委員、桐谷委員、倉水委員、椎名委員、
田中近江委員、田中利和委員、長瀬委員、福永委員
- 2 事務局：池谷環境部長、吉野環境課長、秋山係長（計画推進係）、齋藤係長
（環境保全係）、小沢係長（水と緑の係）、流石主事

〔欠席者〕

委員：亀卦川委員、降旗委員

〔議事要旨〕

- 1 開 会
- 2 委嘱状の交付
- 3 市長挨拶
- 4 委員自己紹介
- 5 会長・副会長選出
- 6 議 題
「昭島市の環境」について【資料 1】【資料 2】
- 7 その他
- 8 閉 会

〔配布資料〕

- 資料 1 第 1 章 昭島市環境基本計画
- 資料 2 第 2 章 水と緑の基本計画
- 資料 3 環境部の組織機構及び分掌事務
- 資料 4 昭島市環境審議会委員名簿

〔発言要旨〕

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
臼井市長より各委員に委嘱状が交付された。
- 3 市長挨拶
- 4 委員自己紹介
- 5 会長・副会長選出

審議会規則で定める互選によって会長・副会長の選出が行われた。前会長の椎名委員、前副会長の長瀬委員が引き続き就任する案が出され、全会一致で承認された。

6 議題

「昭島市の環境」について

個別基本計画の施策実施状況等について、事務局からの説明が行われた。

○環境基本計画について

(資料 1、秋山係長による説明)

○水と緑の基本計画について

(資料 2、小沢係長による説明)

椎名会長： 3 ページ、「雨水貯留槽の設置」について。設置数が伸びている理由は。

齋藤係長： 毎年の気候によって増減するものだが、28 年度は台風が多かったため設置が増えたと考えられる。また、雨水貯留槽をセットにして販売する建売物件が複数あり、それらも影響していると思われる。

吉野課長： 最近は、HEMS や太陽光パネルなどの設備を付けて、環境配慮を売りにした住宅の販売が増えている。雨水貯留槽もその一端かと思われる。

福永委員： 雨水を溜めてどのような使い方をするのか。また、集合住宅ではどうか。

吉野課長： 洗車や水撒きに使われる方が多い。集合住宅ではあまり見ないが、本庁舎では雨水をトイレの洗浄水として使っている。

椎名会長： 雨水の循環という意味で、雨水浸透ますはやっていないのか。

秋山係長： 下水処理の分野として下水道課が設置補助を行っているため、今回の資料には実績を載せていない。

椎名会長： 昭島は地下水であるため原則として給水制限とは無縁であるが、降った雨を地下に戻すことはある程度やっておかなければならない。地下水の恩恵を受けているのだから、感謝のような意味で、少しでも地下に戻すという考えはあってもよいだろう。

田中近江委員： 3 ページ、「市内全域のみどり率」について。新しく整備された中神駅前、拝島駅前に緑がほとんどない。昨年の審議会でも述べたが、もう少し緑を植えて欲しい。水と緑のまちと謳っているのだから、せめてプランターを置いて花や緑を植えるなどしてほしい。

吉野課長： 両駅前については、電線共同溝の関係で植物を地面に植えることができない。プランターについては、道路管理上の障害物になりうるなどの問題はあるが、支障がない場所を模索するなど検討していきたい。

椎名会長： やり方としてはコンテナだろう。歩道部分であれば、動線を考えればできないことではないと思われる。

長瀬副会長： 都市計画の段階で、環境や緑化の面で合意を図る打合せができればよかったと思う。交通や商業面を優先しているとコンクリート化され温暖化につながってしまう。毎年、街の様子を見てそれらにストップをかけるような姿勢が問われるだろう。

小野沢委員： 3 ページ、「河川の保全・啓発活動に参加した市民人数」について。参加人数が減少している理由は。各市民団体への参加が少なくなっていると考えてよいのか。

小沢係長： ボランティア団体の活動回数が減ったこと、また、「水辺の楽校」のカヌー教室が台風で中止となったことにより減少となった。

田中近江委員： 多摩川一斉清掃だが、自治会で参加する人も多くてごみが落ちていない。決して人数が多ければよいというわけではない。いっそ、多摩川に行くまでの間のごみを拾うのでもよいと思う。

小沢係長： 以前、美堀町の自治会から、多摩川まで遠いため玉川上水の周りを清掃したという報告があった。

椎名会長： 地域ごとに清掃する場所を変えてもよいだろう。玉川上水方面の市民は多摩川まで行くだけでだいぶかかる。

小野沢委員： 玉川上水には清掃を行う組織はないのか。立川にはあるそうだが。

田中近江委員： 地域の老人会で行っている。

椎名会長： 人数という目標があるのだから、柔軟に対応できる仕組み・仕掛けを作っておくのがよいだろう。台風などで中止になっても二の矢・三の矢を打てるような具体的な対応をできるように。

長瀬副会長： 経験値を生かした一年一年があってしかるべき。マンネリ化してはならない。知恵出しをする指導を地域に根差すことが必要だ。

安部委員： 自治会で瑞雲中の周りを清掃した際に、若年層によるごみのポイ捨てが目立った。子どもたちにポイ捨てはいけないという教育をすることが必要で、できれば清掃活動に参加してもらうことで、それ以降はポイ捨てをしにくくなる気持ちを芽生えさせていけたらよいと思う。多摩川の清掃活動などへの参加を、教育委員会を通じて呼びかけることはできないか。

吉野課長： 中学校でいくと、各学校でごみの分け方などについて学習の要望がある場合には、職員で出前講座を行っている。

尾崎委員： 昨年、拝島中学校でPTAと生徒と一緒に地域のごみ拾い・清掃を行った。自分も子供の頃、同じように清掃活動に参加した際、こうしてごみを誰かが拾ってくれていると知ること、その後ごみを捨てることがなくなったことを覚えている。

福永委員： 在職時代に毎月一回、会社で周りの道路を清掃していたが、毎回の量は一緒である。通勤途中に飲んだペットボトル等を捨てていく人がいるのは変わらない。また、多く捨ててあるところは汚れていて捨てやすくなってしまう。

椎名会長： 市で行っているもの以外に、個々でやっている清掃活動は意外と多いのかもしれない。それらを団体、時間、季節などでまとめて同時に行うなどし、活動を習慣化することが大切だ。

吉野課長： 市ではごみゼロの日（5月30日）の前後一週間を対象として、各自治会にごみ袋を配付しごみ収集をお願いしている。また、不法投棄を防ぐため、広報や看板などで啓発を行っている。

椎名会長： ごみが捨てられている時間を少なくすることが大切だ。

福永委員： 捨てる人間はだいたい決まっている。ごみ拾いをしていても、同じ場所に同じものが落ちていることが多い。

長瀬副会長： 東中神の八千代銀行の向かいにあるポケットパークが、ポイ捨ての温床になっている。目の前のコンビニで買ったであろうものがほとんどだが、コンビニ側が収集する気配はほとんどない。ごみ箱もあえて置かれていない。

福永委員： 販売するだけで、回収する意思がないのだろうと思われる。本来ならば、コンビニに回収してもらわないといけないところではあるが。

椎名会長： 責任を追及してもなかなかうまくいかない。ごみを見つけた人が掃除できるような環境社会を作っていくことが必要だ。

田中近江委員： ごみ減量推進員は、いつも袋を持ってごみ収集をしてくれている。

秋山係長： 市で多くの方に委嘱しており、市域の美化の一助となっている。

福永委員： そういった人たちを表彰してもいいと思う。

田中近江委員： うちの自治会では、自主的に活動してくれた方（植栽など）には、ささやかながら商品券を渡して感謝の意を表している。

秋山係長： やっている人間が励みになるようなことができればいいと思う。

椎名会長： ほかに何かあるか。

倉水委員： 環境は文化だと思う。日本にはごみを捨てないという文化が根付いてきたように思う。また、小学生と接する活動を行っているが、彼らは水、草花、魚といったものに非常に興味を持っている。子どもたちが生き物と接する中で、自然と環境への理解が深められるような取り組みがあるといい。また、生物多様性について、在来種・外来種の区別は容易なことではないが、外来種を捨てるなということは理解できると思う。モラルとか、ハート（心）の部分を醸成できるような施策が求められる。

吉野課長： 生物多様性については、環境学習講座を行っており、先週は、多摩動物園の昆虫館にて昆虫の見分け方などを行った。昨年度は多摩川付近にて水生生物の調査、その前は植物の調査など、あらゆる生物多様性の取り組みを、環境分野のリーダー達に見ていただきながら、戦略として詰めていきたいと考えている。

倉水委員： 素直に興味を持ちやすい小学生のうちからしっかりと学習をすれば、中学生・高校生あたりになっても定着するはずである。小さいころから体得できる場があればいいと思う。

椎名会長： ほかに何かあるか。

桐谷委員： 3ページ、「みどり率」について。宅地化が進む中で、街の緑を死守しようというのが市の方針かと思うが、一筋縄ではいかない数値目標かと思う。一方で、生け垣や屋上緑化、壁面緑化の推進に取り組んでいるが、それら公共施設的なもの以外にも、緑のカーテンといった程度のものにキャンペーン活動を打っていてもいいと思う。先ほどの、駅前の緑が少ないということも含めて、これらを広めていけば、みどり率が下がったとしても、昭島市は緑を増やす取り組みをやっているとアピールできるのではないだろうか。

吉野課長： 緑のカーテンについては、広報やホームページなどでもPRしており、また、区市町村による「みどり東京62プロジェクト」から配布されたゴーヤとアサガオの種を市民に配布するほか、環境緑花フェスティバルでもグリーンカーテン講習会を開いている。引き続き、これら活動に取り組んでまいりたい。

秋山係長： みどり率は上から見た時の割合であるが、壁面緑化などの、みどり率に表れない緑を有効に活かしていきたい。

吉野課長： 昭島市では松原町コミュニティセンターで壁面緑化を実施している。

倉水委員： 市が積極的に建物を緑化することで、市民に刺激を与えてもらいたい。種を配ることも悪くはないが、施策としては消極的に感じる。

福永委員： 管理面での大変さがあり、官民ともになかなか厳しい面はあると思う。

桐谷委員： ともあれ、昭島のみどり率 43.8%は非常に高い数字であり、維持するのは非常に困難だろうと推測される。

吉野課長： 昭島は多摩川と玉川上水の存在が大きく、数字を稼いでくれている。

椎名会長： 昭島の売りは水と緑であるが、みどり率（緑被率）だけではなく、実態としての緑（緑視率）を体感できる仕掛けが求められる。なお、これからは自治体間競争が展開される時代を迎える。人口が減れば税収が減るのだから。

安部委員： テレビでやっていた全国の住みやすい自治体ランキングに、昭島市は 10 位以内に入っていた。

椎名会長： 何のランキングでもいいから、多くの動向を把握しておいた方がいい。

福永委員： そういう意味では、4 ページの「ホームページ上に情報交換の場の開設」というのは検討中となっているが、急がなければならないだろう。

7 その他

事務局： 東京オリンピック・パラリンピックが開催されるのを機に、東京都より配布されたピンバッジを各席に配らせていただいた。活用いただければ幸いである。

8 閉会